

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4170300232		
法人名	医療法人 啓心会		
事業所名	グループホーム けいしん		
所在地	佐賀県鳥栖市飯田町69-1		
自己評価作成日	平成21年10月23日	評価結果市町村受理日	平成22年2月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gojuhou-saga.jp/kai_gosi_p/Top.do">http://www.kai.gojuhou-saga.jp/kai_gosi_p/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝1丁目15番3号		
訪問調査日	平成21年11月9日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

地域交流 2ヶ月に一度も運営推進委員会を通して、地域の行事、清掃、廃品回収、老人会に職員、入居者と参加している。又、施設の行事に招待したり、夜間の避難訓練には地域の方々に参加して頂いたりと交流をしている。また、役に立つ施設として母体の病院と共に公民館での医療講演も開催している。健康管理 母体病院から往診、薬剤指導、リハビリ等にて病状管理や機能低下防止、緊急時の体制を整備している。演芸 畑に四季の野菜を作り、収穫祭などで収穫した新鮮な野菜を調理したりしている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

南に田園風景が広がる静かな環境の中にあるグループである。床をカーペットに張り替えられ、ホーム全体が明るく温かな雰囲気となっている。張り替えた事で床のクッション性が増し、事故の減少にもつながっている。入居者一人ひとりの思いを大切にしながら、管理者を中心にチーム全体で、より良いホーム作りを目指しておられる。1階にデイサービスがあり、行事によっては合同で楽しむといった事も行われている。また、母体の医療法人から薬剤師や理学療法士を招き、家族や地域の方がに対し介護教室が開催されるなど、法人の多機能性を活かした取り組みが積極的に行われている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的で楽しい雰囲気を提供します。ふれあい、よりそいに関わりながら共同生活を致します」という理念を作り、毎日の朝礼で、唱和し常に頭に入れ入居者の方々と接しており日常の業務のなかでより良いホームを目指しながら対応している。	家庭的な雰囲気ということを大切にされ、入居者・家族・職員・地域の方々を含めた共同生活を目指し、日々その実現にむけ努力されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の老人の集いや文化祭に参加したり、グループホームの行事、避難訓練など共同して行っている。	文化祭、秋祭り・清掃活動等の地区行事に積極的に参加されている。また、地域からも各種ホーム行事に参加がある等、日常的な関わりが保てるよう努力されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	母体である啓心会病院の医療講座を公民館で開催したり、地域の清掃行事に参加している。又、地域との運営推進委員会にて話し合いをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地区の区長・民生委員・老人会長・市職員・施設の代表者と行事や予定を報告しあい、行事の後は評価をしてもらい記録を残し次回や日々の介護に役立てている。	ホーム行事の報告にとどまらず、意見交換や情報の発信、収集の場として運営推進会議を活用されている。この会議を通じて、地域との関わりが更に深まっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢者グループホーム事業所連絡協議会に出席し情報収集し役立てている。	市担当者とも随時相談・協力を得られる関係作りができています。また、鳥栖地区のグループホーム協議会を通し、市との関わりを更に密にしていく事も計画されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	通常拘束は行っていないが、緊急止むを得ない場合は職員の少ない時間帯などは、入居者の安全を考え家族会とも相談して理解を得ている。又、家族から頼まれる事もある。拘束時間は記録に取り短時間で済むようにしている。	身体拘束をしないケアの大切さを、母体法人の勉強会等で学習する場が設けられている。主治医の指示等でやむを得ない場合は、必ず家族の了解を得たうえで記録にも残されている。現在は玄関の施錠を含め、拘束は行われていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	啓心会全体での定期的な勉強会に出席したり、虐待に繋がるような行為を見つけたり、報告があれば、必ずカンファレンスにて検討し改善策を書面にて報告している。職員一同確認を持って、会は何度か行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前回までは、外部研修に職員をだし、広く知識を吸収して貰っていたり、母体である病院のソーシャルワーカーから指導をうけていたが現在は行えていない。又、現在該当する入居者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所される時はもちろん、その後も電話や家族の訪問時や家族会で質問・疑問に答えている。退去になった後でも電話や顔を合わせた時などいつでも相談に応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関を出た、すぐのスペースに意見箱を設置し、意見をお聞きしている。 年1回の家族会で意見交換を行っている。 また訪問時に家族との情報交換を行って話せる機会を作っている。	玄関には意見箱が設置され、苦情・要望はいつでも受け付けることは随時説明されている。要望等があった場合は、全体で話し合いの場を持ち対応されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の業務検討会で職員の意見を聞いて検討して改善している。 又、対応できないものは、啓心会全体の在宅会議に提出し、検討したり指示を受けたりしている。	月に1回の業務検討会議や、必要時のミーティング等にて意見を出し合う場が設けられている。参考になる意見・提案は、ホームの運営にも活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	啓心会全体の在宅会議に提出し、検討したり指示を受けたりしている。時間内勤務の取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用された職員は教育期間を決め、業務内容事とその業務に従事する職員について仕事を習得していく。業務習得に不安があれば再度研修する事が出来る。職員には各研修や講習に順番に参加させており、終了後は報告書を作成し他の職員も目を通せる様になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回の高齢者グループホーム連絡協議会の出席や、研修参加時に作ったネットワークを通じて情報交換を行い、良いと思うところは職員に知らせ見習うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談や見学に納得いくまで何度来て頂いても良い。ご本人が不安がある時は、ご家族や担当ケアマネージャーと一緒に来られて相談や話しをされる事もある、又、グループホームからも質問し、納得頂くまで話合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や相談を受けています。相談は電話でも受けている。ご家族だけでも、ご利用者と一緒でもどちらでも同じように相談を受け、十分納得いくまで話をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族・ケアマネージャー共々相対的に話は伺っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方々と一緒に行うレクリエーションや作業・仕事の中で感謝の言葉かけや上手にできた時の褒める言葉かけや励ましの言葉かけを行いながらしている。上手に出来た時など、職員も入居の方々と一緒に喜んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事や家族会など家族の参加を促している。 入居者、家族、職員が交流の機会をつくり信頼関係を深めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスで一緒に利用されていた方々の利用日に会いに行ったり、ホームに尋ねて来られたりと交流が図れるよう支援している。	家族・友人の訪問は、ホーム側も積極的に勧められている。地域の祭り等へ参加する事で、馴染みの方々との交流が継続され、入居者の地元を訪ねるツアーも計画されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新規の方には気軽に話出来る方や、親しみが持てる方の近くで食事やお茶の時間を過ごして貰っている。又、職員も溶け込みやすいよう声かけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院になった時等は、病院へ行った時病室を訪ね、本人や家族と会話する時間を作っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から話を聞いていろいろ情報を得て、入居者をより理解しようとしている。又、時々、の場面で知り得た情報を職員全員で共有し、どの職員でも同じ対応が出来るようにしている。	入居者の思いをくみとり、その実現のため日々検討されている。日頃の会話の中から気付いたことは本人の思いとして、そのままの言葉で記録され、本人本位の支援に活かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生活歴や職歴、趣味などゆっくり話しながら、又、家族からも情報収集している。その情報を職員で話し合い支援内容を明らかにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックを行い小さな変化も見逃さないようにしている。又、レクリエーションの時間を作り、塗り絵や体操、散歩に誘い、心身状態を観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝の申し送りや終礼で小さな事でも気付きを出し合い、カンファレンスやモニタリング、サービス担当者会議で介護計画に生かしている。	入居者本人・家族の意向を踏まえ、主治医の意見を参考にしながら全体で話し合いを持ち、介護計画が作成されている。3ヶ月に1度の見直しと共に、必要時は随時見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルが作成され分かりやすく昼夜区別され日常の気付きなどを書き込み、又、食事量、排泄、体重など細かく記録している。申し送りノート記載し職員全員が把握する為、目を通したら各自捺印するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月の定期的な業務検討会やカンファレンス等、会議が月3~4回行われている。1日の業務の流れの中で、時間を見計らい出席者が参加する事になっている。職員全員が把握する為、それぞれの会議のノートがあり、全員が目を通したら各自捺印するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年4月に入居者・家族・消防署・地区の区長・民生委員・その他の住民の方々・ビル管理会社等で夜間対応の消防避難訓練を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の病院に受診しているが、入居以前からのかかりつけ医もあり受診希望があれば、その時は家族支援で受診して貰っている。	ほとんどの入居者が母体医療機関が主治医であるが、入居前からのかかりつけ医を希望される場合は、その希望に沿った医療が受けられるよう支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の変化は必ず看護師に報告し指示を受けている。母体が病院である為受診は容易である。時間外の配慮や優先的な配慮もして貰っている。又、歯科受診についてはデイサービスに訪問診療があり、ホームの入居者も受診しているし病院通院が必要な時は送迎もしているので容易に受診出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	常に主治医や病院のソーシャルワーカーと連携を取っている。又、入居者が不安にならないよう、お見舞いに足を運んだりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応・終末期ケア対応指針を作成し家族にも説明を行っている。又、必要であれば、往診時家族にも来て頂き話し合いを行っている。	ホームの対応指針を説明すると共に、家族の意向を契約時に確認し、状況に応じて対応されている。家族の気持ちも変化するため、その度に確認はとられている。	家族の意向について、随時確認は行われているが、記録としては残されていない。今後、確認した内容を記録し、文書として残される事が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時連絡手順を決めている。家族にも説明している。消防避難訓練時に消防署の方から参加者全員に指導を受けたり、病院の勉強会に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間帯は年2回のデイサービスとの合同の防災訓練に参加し、グループホームでは毎年4月に夜間対応の消防避難訓練に職員・入居者・地域の方々それぞれの役割を決め行い、皆がそれぞれの役割を果たし、又、毎年違う役割で経験を積んでいる。	年2回デイサービスと合同で訓練が実施されている。夜間対応については近所の協力のもと、非常ベルの夜間帯での確認等、積極的に行い、協力が得られる関係が構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の声かけ、誘導の必要な方は時間の把握やその時の様子で誘導している。その際トイレのドアは必ず閉めるようにしている。又、個人情報が入居時に本人・家族に説明し了承を得ている。	入居者の生活歴・性格等に配慮しながら、一人ひとりの思いを大切に言葉かけや対応がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物などの外出は希望を聞きながら行っている。居室には洋服を箆筒に入れるだけでなくハンガーに掛けられていて、その日どれを着ようか選ぶ事が出来る。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は先回りしないでゆったりと接することで入居者の力を引き出したり、行動などの制限を出来るだけしないで見守るようにしている。出来る事や好きな事は自然にやれるよう誘導している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1度理容室センターからホームに来て頂き散髪を行っている。その時は本人の好みやご家族からの注文でパーマや髪染めもして貰っている。又、行き付けの美容室があれば、家族支援で行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の食べたい物など聞きながら季節を感じられる献立を立てている。調理準備では、入居者の出来る準備はして貰っている。盛り付けや味見・箸や湯飲み等のセッティングをして貰ったり、食器洗いやお盆拭きなど出来る範囲で一緒に行っている。	入居者の状態に応じ、下膳、箸置き、味見と一緒に出来る事は職員と共に行われている。また、職員も一緒にテーブルで食事を摂りながら、さりげない支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病院の栄養士による勉強会を継続している。水分はいつでも摂取出来る様フロアに、ウォーターサーバーを置いている。月1度体重を計り変化をチェックしている。又、医師の指示により毎週や隔週測定している方もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けを行っている。義歯洗浄は担当者により週1回行っている。口腔ケアが困難な方は、訪問診療があり受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの方も居られるが、入院時にオムツ対応された時はホームに戻ってからは早く外せるよう支援をしている。職員が入居者の個々の排泄パターンを把握して、必要がある方の声かけを行っている。夜間は転倒を防ぐ為にポータブルトイレを使用する方もある。	入居者の排泄パターンを職員が理解し、一人ひとりに応じた時間ごとのトイレ誘導等の支援が行われている。職員全体でオムツをはずす方向での、意識統一が図られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	担当者は繊維物を多く摂取するよう献立を立てている。介護職員は水分を多く摂取するよう声かけや働きかけをおこない、レクリエーション担当者は運動を取り入れ、看護師は排便コントロールをチェックし便秘を長引かせないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入所者の希望にあわせて行っている。入りたくないと言われる方には時間をずらして何度か声かけをしている。入浴時は綺麗に洗うことが出来ているか、さりげなく見守りながらサポートをしている。	入浴は一日おきであるが、毎日入浴することは可能であり、入居者の希望に応じ随時対応されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩したり、日中寝すぎないよう居間で話しをしたりしている。行事等で一日のパターンの違いがあり、疲労が見られる方は日中でもベットに横になり静養される事もある。病院から眠剤を処方されている方もあるが、眠れぬ方を無理やり寝かすことはしないで自由に過ごして貰っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師がホームに来て一人ずつ声を掛けながら指導している。職員にも指導しており、質問、疑問に答えている。薬の用法や効果などが書かれた物をいつでも見て確認出来るようファイルしている。又家族会でも薬剤師が出席しており、質疑応答もあり家族からも安心して貰っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節折々の行事はホームでも取り入れるようにしている。その時には家族にも声かけし参加して貰って一緒に楽しんで貰っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族からの希望もあり出来るだけ体を動かすよう促している。毎月の買い物ツアーやデイサービスの売店を覗いたり、ホームの前には神社があり、周りには田園も多く、散歩するには良い環境が整っているため声かけをして出かけている。	日常的な買い物・散歩に加え、季節行事での花見や外食等、外出の機会を設けられている。また、入居者の方の地元や、友人がおられるケアハウスへの訪問等の支援も行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでは責任を取らない事を納得のうえで、入居者と家族との間で取り決めていて、職員は金額や残高にも立ち入らない、自己管理できない方についての買い物などは、家族も承知して訪問時に入居者の好む物などを持ってきている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室から電話される所もあるが、出来ない部屋は以来があれば事務所から職員が取り次いでいる。家族からかかってくる電話は取り次いでいる。手紙は、ホーム通信等に書かれる方も居られる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビは食事中は消して音楽を静かに流している。玄関に入居者が描いた絵を飾ったり、ホールでは、食事準備の音や匂いがあり、秋には、いちよの紅葉や田圃の取り入れなどの音が入ってくる。	ホーム全体が明るく温かな雰囲気である。季節ごとの飾り付け、各種行事の際の写真の掲示等も工夫されている。窓からは田園風景が広がり、自然と季節が感じられ、入居者一人ひとりが思い思いの場所で過ごせるよう、居心地よい空間作りに努められている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビから近い位置にソファが置かれ好きな番組を選んで見たり、玄関近くにさり気なく椅子が置かれ思い思いの時間を持つことができる。気候の良い時は、ベランダに椅子を出して日光浴をしながら会話を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や小物入れなど持ち込まれたり、入居者手作り作品やそれを飾る物など本人の希望で持ち込まれたり、家族が訪問時に気付いた物を持参したりしている。テレビの持ち込も自由である。	入居時に、使い慣れた家具やテレビ等が持ち込まれ、一人ひとりが居心地良く過ごせるよう、部屋の飾り付けにも配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ浴室等に手すりが設置されいつでも、どこでも手を伸ばせば届くようになっている。		